

[第 139 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 6月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5 年 7 月 1 日(土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.244～(用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

令和5年6月3日(土)、安曇川公民館で第 138 回藤樹人間学塾を開きました。今回は京都からの参加者を入れて7名でした。うち女性1名。

■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第五巻 慈残報の第 5 話～第 7 話

■ あらすじ

第 5 話 慈愛の母が継子を実子以上に愛した。慈善は百福の源である。第 6 話 継母が継子を残忍な扱いをして殺す。残悪は禍の根源であり、我が子、我が身にふりかかる。第 7 話 王益の後妻、呉氏は学問を好み徳のある女性で二人の継子を慈しんだが継子は亡くなった。実子の王安石は宰相になり良い政治を行い栄えた。呉氏の行いは、自他を一様に愛する「万物一体の仁」であった。

■ 配布資料

(1)「まなざし 457 号」、(2)鈴木秀子「人生を照らす言葉—遠藤周作の『深い河』」(致知)、(3)五木寛之・境野勝悟「人生百年時代をどう生きるか」(致知)

■ 今日のポイント

- ・ 慈善は百福の源、残悪は禍の根源である。継子とわが子は本来一体である。万物一体の仁をわきまえる。
- ・ 人間は重荷を背負って生きている。心の内側を正直に見つめると醜さ、惨めさを感じる。その耐え難い苦しみを私たちに代わって背負って歩いてくれているのが神仏である。
- ・ 苦悩に支配されるのではなく目の前に目を向けると、私たちの周りには小さな喜びが溢れている。私たち人間は深いところにある愛で皆つながっている。

■ フリートーク

- ・ 「実子と継子の問題については、感情を理性でいかにコントロールするかだと思う」
- ・ 「「善人なおもって往生を遂ぐ。いわんや悪人をや」(歎異抄)。これは、「まなざし」で、自力志向(善人)と本願他力志向(悪人)のことだと教えられていた」
- ・ 「龍谷大学時代に劇団を組んで、親鸞の役をやり地方で演じたことがあるので、こういう話は感慨深い」

等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。

